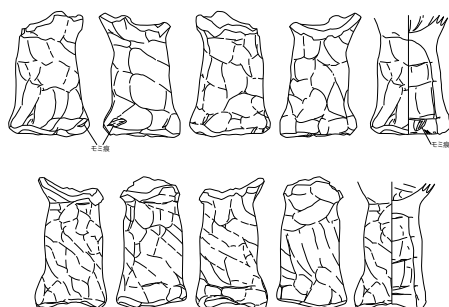


III. 刊行報告書抄録

第182集 松崎遺跡 II 上浜田遺跡



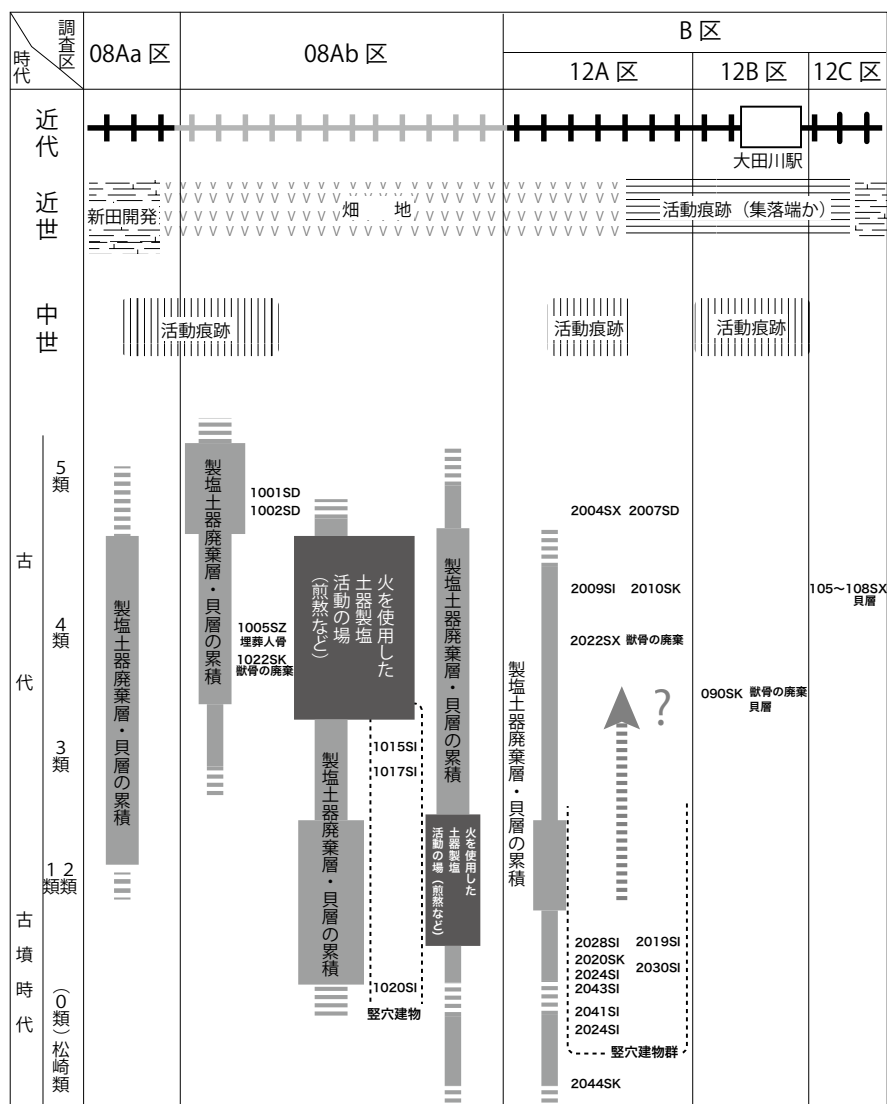
0 (1/4) 10cm

製塩土器知多式 1 類

松崎遺跡は、古墳時代から古代にかけての土器製塩遺跡としてよく知られている。調査区は、松崎遺跡の東端と上浜田遺跡の西端をつなぐ形で設定された。調査・整理の結果、遺跡の形成は砂堆に沿った活動痕跡を確認することができ、古墳時代から古代に亘って、極めて盛んな土器製塩活動を確認することができた。特筆すべきものに、土器製塩を実際に行なったと考えられる場の検出と、竪穴建物跡の検出がある。また、古代の埋葬人骨を一体確認することができた。これまでの出土人骨も精査した結果、古代の一時期には埋葬遺構を配する空間が存在していたことも明らかとなった。

(川添和暁)

2008 年度・2012 年度調査における松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷



報告書抄録

ふりがな	まつさきいせき かみはまだいせき
書 名	松崎遺跡II 上浜田遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第182集
編著者名	川添和暁・早野浩二・堀木真美子・鬼頭 剛・堀内晶子・宮田佳樹・畑山智史・中村賢太郎・山形秀樹・伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2014年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° 〃 〃	東経 ° 〃 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつさきいせき 松崎遺跡 ・ かみはまだいせき 上浜田遺跡	とうかいしおおたまち 東海市大田町	23222	43037 ・ 43135	35度 人分 38秒 〃 35度 人分 7秒	136度 53分 46秒 〃 136度 53分 49秒	200808～ 200903、 201205～ 201209	8,300㎡	名古屋鉄道 常滑線連続 立体交差事 業に伴う 事前調査

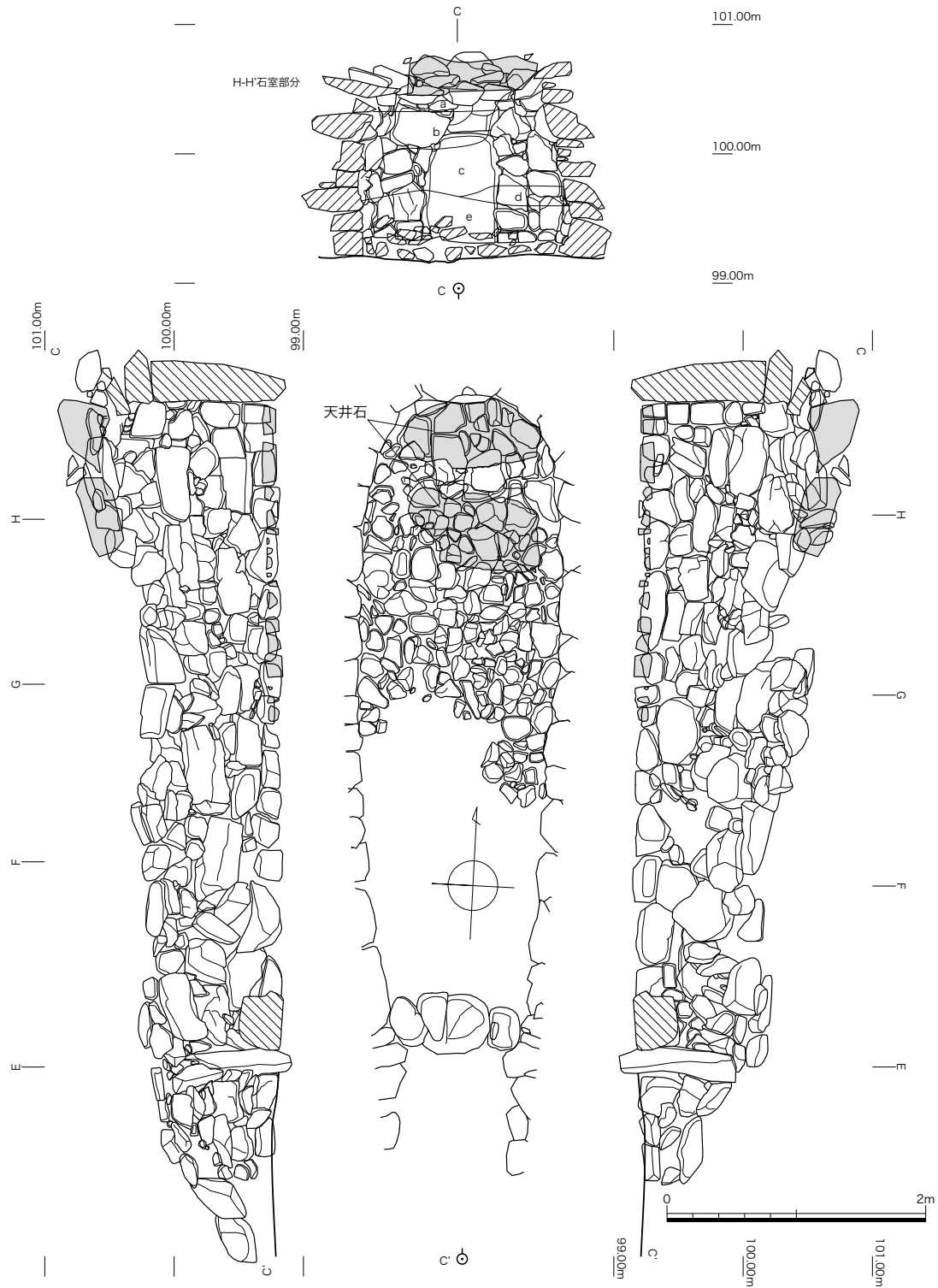
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松崎遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	竪穴状遺構・炉跡・ 包含層・貝層 ・埋葬人骨	製塩土器・土師器・須恵器 ・灰釉陶器・緑釉陶器・ 土錘・土製紡錘車・鉄器 (鏃・刀子・鎌など)・鉄滓・ 鹿角製刀子柄・点状刺突 具類(角鏃など)・骨針	包含層には製塩土器 廃棄層および作業面 の埴重を含む
上浜田遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	貝層・包含層	製塩土器・土師器・須恵器 ・灰釉陶器・土錘・鉄器 (鏃・刀子)・鉄滓・鹿角製 刀子柄	

文書番号	発掘届出(20埋セ第49号・20・7・25 / 23埋セ第179号・24.3.21) 通知(20教生第1136号・20・8・12 / 24教生第179号・24.4.10) 終了届(20埋セ第132号・21・3・30 / 24埋セ第83号・24.9.25) 保管証・発見届(20埋セ第132号・21・3・30 / 24埋セ第83号・24.9.25) 鑑査結果通知(21教生第380号・21・5・22 / 24教生第1675号・24.10.4)
------	--

要約	本調査は、松崎遺跡の西端および上浜田遺跡の東端を連続して調査したものである。松崎遺跡では、知多式I類および4類段階の製塩に伴う炉跡などの作業場を想定することができた。各段階の廃棄層・貝層を確認することができた一方、作業に伴う竪穴建物跡を検出することができた。さらに、古代における埋葬人骨の出土など、土器製塩とそれに関連する空間利用について、好資料を得ることができた。上浜田遺跡としては、廃棄層の端部と考えられる包含層および貝層を検出した。
----	---

第184集 須長10号墳

調査区は古墳時代終末期の古墳を中心とする遺跡で、横穴式石室構造の円墳1基と竪穴建物3棟、土坑等が確認された。円墳の規模は直径約12mで、南側を除いて周溝が巡る。石室は全長約7m、幅約1.5mの横穴式である。前庭部では須恵器高杯、有蓋環等が集中して検出された。(松田 訓)



石室平面・立面展開図 (1:50)

報告書抄録

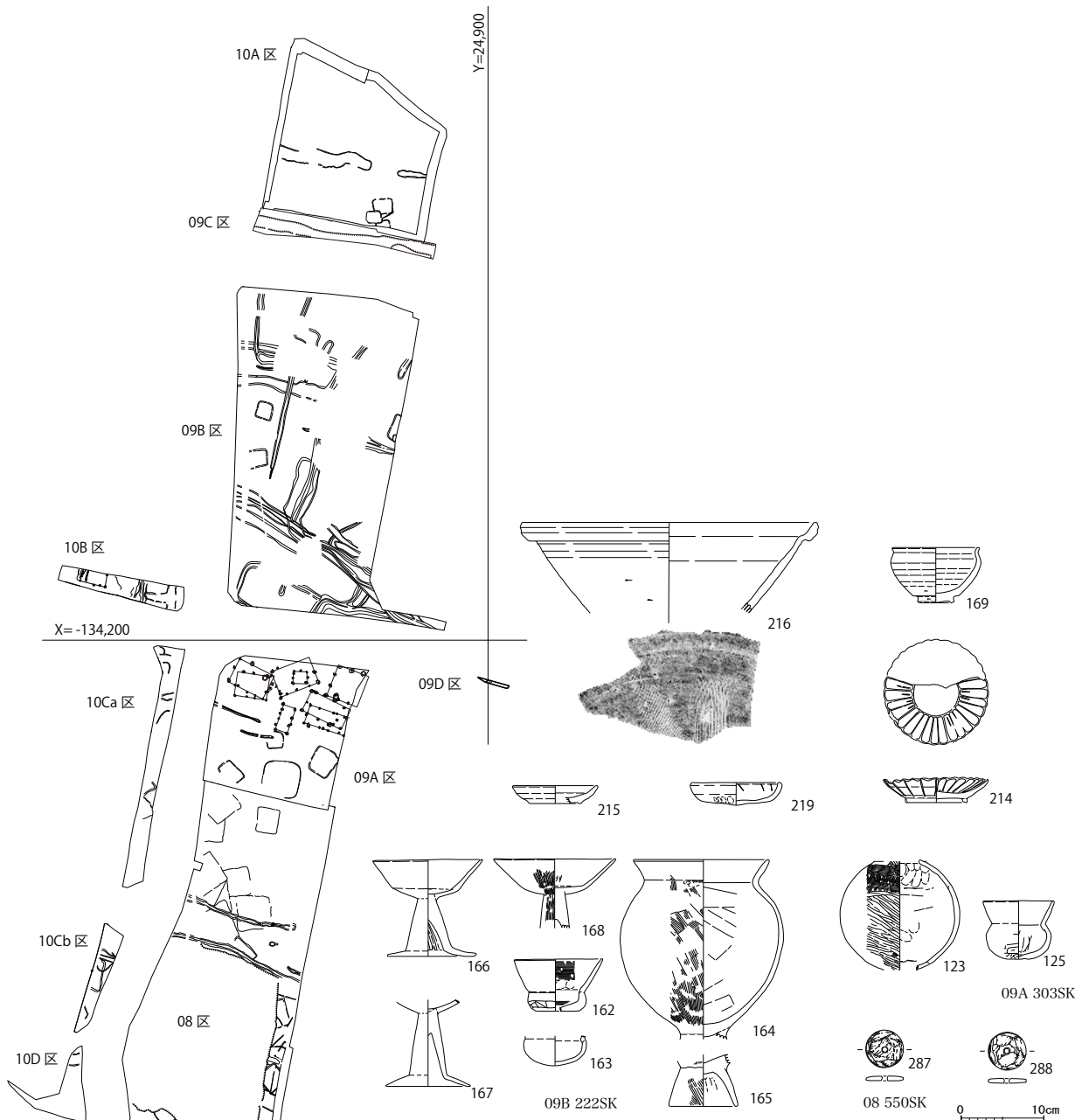
ふりがな	すながじゅうごうふん							
書 名	須長10号墳							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第184集							
編著者名	松田 訓・パレオラボ株式会社							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
すながじゅうごうふん 須長10号墳	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 すながあざてんのう 須長字天王	23221	76215	34度 55分 36秒	137度 31分 45秒	2010.1.5～ 2010.3.30	1,200㎡	第二東海 自動車道 横浜名古屋 線建設に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
須長10号墳	古墳 ほか	縄文～ 古代	古墳 竪穴建物		須恵器・土師器 灰釉陶器			
文書番号	発掘届出(21埋セ第69号・2009.9.30) 発掘許可(21教生第1437号・2009.10.9) 終了届(21埋セ第153号・2010.4.2) 発見届(21埋セ第154号・2010.4.2) 保管証(21埋セ第156号・2010.4.2) 認定(22教生第546号・2010.6.11)							
要約	本遺跡は古墳時代終末期の古墳を中心とする遺跡で、横穴式石室構造の円墳1基と竪穴建物3棟、土坑等が確認された。円墳の規模は直径約12mで、周溝が南側を除いて巡る。石室には花崗岩が使用されており、全長約7m、幅約1.5mの横穴式で、天井石は奥壁部2石を除いて消失。前庭部では須恵器高杯、有蓋杯等が集中して検出された。検出された土坑の中では、出土炭化物の放射性炭素年代測定にて、縄文時代早期前葉の値を示すものも含まれた。本遺跡は、丘陵上に展開する遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。							

第185集 東屋敷遺跡

東屋敷遺跡は愛知県豊橋市石巻本町字東屋敷に所在し、地形的には石巻山の西麓の三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地している。

発掘調査は愛知県道路建設課による道路改良工事（主）東三河環状線建設事業に伴うもので、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが実施した。総面積は4420㎡で、調査期間は平成20年度～平成22年度である。

検出できた主な遺構は各時期に及ぶが、弥生時代後期～古墳時代前期と近世にまとまりが確認できた。前者は段丘端部付近に集中する弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物群で、後者は調査区全域に広がる溝による区画と、区画中に展開する遺構群で構成されている。（池本正明）



東屋敷遺跡 主要遺構と出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがしやしきいせき							
書 名	東屋敷遺跡							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第185集							
編著者名	池本正明・鬼頭 剛・本田英貴							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
ひがしやしきいせき 東屋敷遺跡	あいちけん とよはし し 愛知県豊橋市 いしまきほんまちあぎ 石巻本町字 ひがしやしき 東屋敷	23210	790333	34度 47分 22秒	137度 26分 15秒	2008.11.～ 2009.03. 2009.10.～ 2010.02. 2010.05.～ 2010.08.	1,050㎡ 2,060㎡ 1,310㎡ (4,420 ㎡)	道路改良 工事東三 河環状線
				世界測地系による				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東屋敷遺跡	集落	弥生時代 終末期～ 古墳時代 中・近世	竪穴建物・土坑 掘立柱建物・溝・土坑		弥生土器・土師器 石製紡錘車 中近世陶磁器			
文書番号	発掘届出(20埋セ85 20.11.21・21埋セ43 21.8.4・22埋セ18 22.4.16) 通知(20教生2118 20.12.9・21教生1059 21.8.14・22教生245 22.4.26) 終了届・保管証(20埋セ120 21.3.17・21埋セ144 22.3.24・22埋セ130 22.8.4) 監査結果通知(20豊美587 21.3.23・21豊美618 22.3.30・22豊美210 22.8.9)							
要約	弥生時代では台地の縁辺部に竪穴建物が集中している様子を確認できた。中・近世では溝による区画が確認でき、区画の中には柱穴と考えられる小土坑が集中している区画も確認できる。							

第186集 一色青海遺跡 III

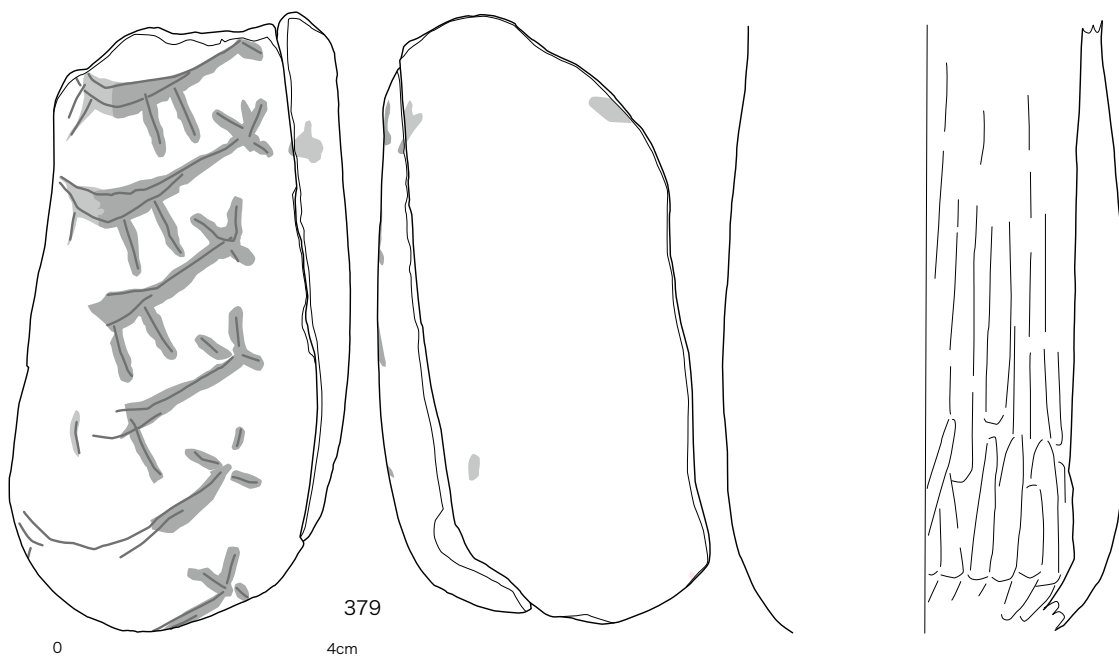
稲沢市に所在する一色青海遺跡は濃尾平野低地部を代表する弥生時代中期後葉の集落遺跡である。平成3年度以来の調査で、これまでに200棟を超える竪穴建物のほか、平成15年度の調査では集落中枢部で東日本最大級の掘立柱建物も確認されている。

平成21年度におこなった今回の調査では、竪穴建物69棟、掘立柱建物7棟のほか、居住域の北を北西から南東に流れる自然流路を確認した。本遺跡の居住域はこの自然流路によって形成された自然堤防上に展開していることがあきらかとなった。この自然流路は集落継続期間のうちに洪水で埋没し、その後2度にわたって同じ場所に大溝を再掘削している。この自然流路と大溝からは大量の土器のほか、製作途上の木製品や編みカゴ類が出土し、この流れを利用して木製品生産をおこなっていたことがわかった。

また、居住域では長軸が10mを超える大型竪穴建物も確認しており、すぐ南にあたる前回調査区と同様、多い箇所では5～7回もの遺構の重複があった。さらに調査区の西側に集中する大型土坑群のうちの1基からは、ベンガラで彩色をほどこした鹿6頭を縦方向に並べて描いた筒形土器が出土した。鹿の絵画土器そのものは近畿地方を中心に多数存在しているが、彩色をほどこした例はこれまで九州で1例のみで、さらに赤彩した例はこれが全国初である。

(樋上 昇)

1257SK



鹿の絵が描かれた筒形土器

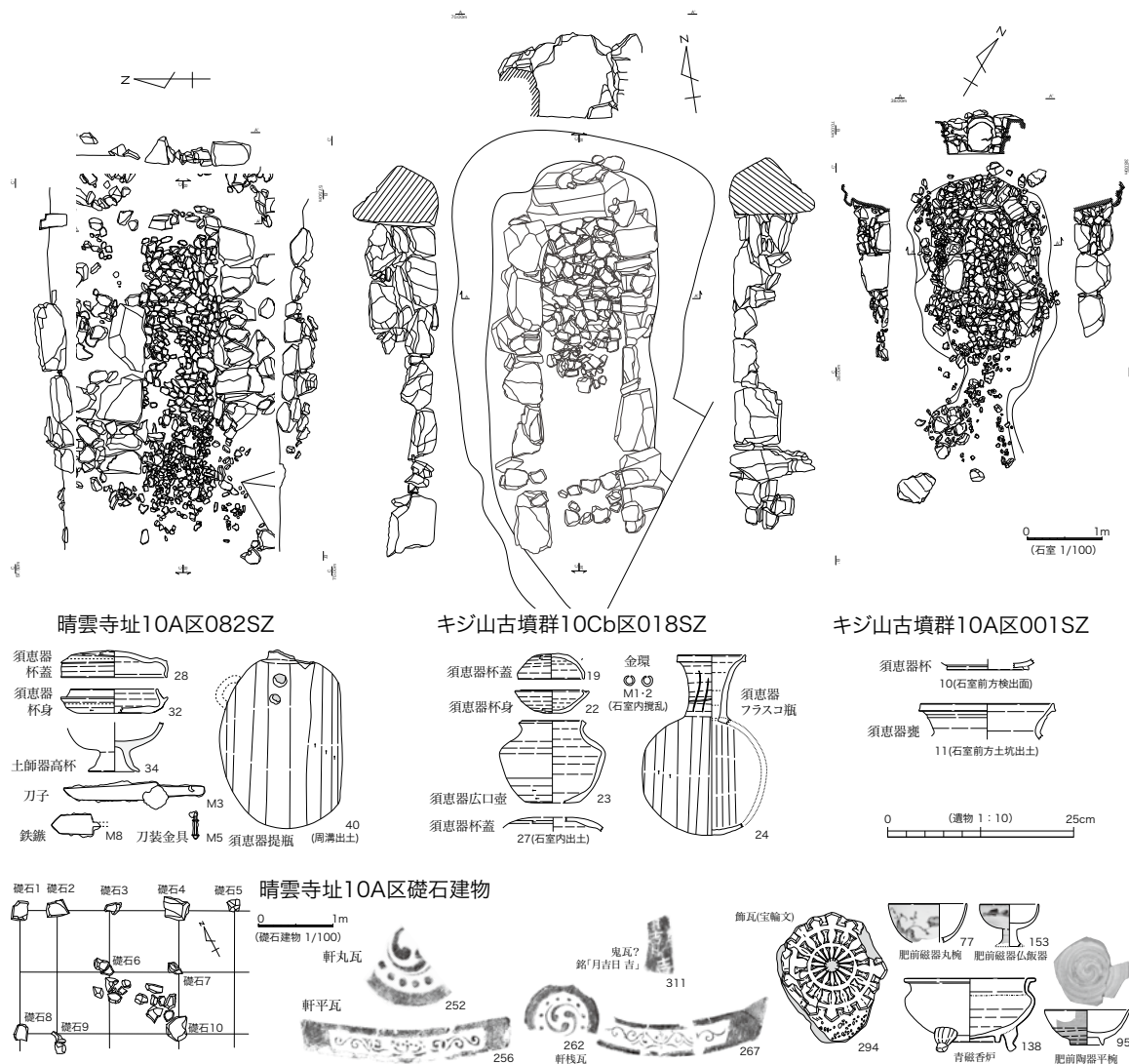
報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき							
書 名	一色青海遺跡Ⅲ							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第 186 集							
編著者名	樋上 昇・鬼頭 剛・深澤芳樹・中塚武・鈴木三男・能城修一・小林和貴（東北大学植物園）、佐々木由香・黒沼保子・伊藤 茂・安 昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjiani・小林克也・中村賢太郎・奥野絵美							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうすがたに 平和町須ヶ谷	23220	270013	35 度 14 分 9 秒	136 度 45 分 20 秒	2009.5.1 ～ 2010.3.8	5,500 m ²	日光川 上流流域 下水道浄化 センター建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代 中期後葉	竪穴建物 69 棟、 掘立柱建物 7 棟、 柵列 3 条、自然流路 3 条、溝 36 条、 土坑 339 基	弥生土器、木製品、 石器、植物遺体		ベンガラによる 鹿の絵画土器		
	墓跡	鎌倉～ 戦国時代	溝 94 条、土坑 159 基	山茶碗、木製品		墨書土器		
文書番号	発掘届出：埋文（21 埋セ第 1 号） 発掘届出：県教委（21 教生第 113 号） 完了報告（21 埋セ第 139 号） 文化財認定（22 教生第 792 号）							
要 約	濃尾平野南西部の拠点になる弥生中期後葉の集落跡。集落の中心部を調査し、 居住域の北を流れる自然河道とそれの埋没後に再掘削された大溝、大型竪穴建物 などを確認した。大型土坑からは全国初のベンガラによる鹿の絵画土器が出土した。							

第188集 キジ山古墳群・晴雲寺址

当該遺跡は、豊橋市市街地東方丘陵上にあり、40基以上の古墳群であるキジ山古墳群と、その範囲確認調査の過程で新たに確認された、江戸時代創建の寺院遺跡である晴雲寺址からなる。発掘調査により前者では3基の横穴式石室などを検出した。石室からは多数の須恵器と刀子や鉄鏃などが出土し、ひとつの古墳群における、古墳時代後期から終末期に至る墳墓の変遷をたどることができた。一方後者は、宝永5年(1708)に吉田藩主牧野家の菩提寺として起工されたもので、礎石建物や階段遺構を検出した。18世紀前半を中心とした造営活動が文献史料から知ることが出来るのが特徴である。

遺物整理作業は特に後者にかかる瓦や陶磁器が中心となった。軒椽瓦は同市・吉田城遺跡の武家屋敷で同範資料が確認され、陶磁器では肥前産の磁器や陶器が目立つことも同遺跡での成果に類似する。また、古墳群(晴雲寺址10A区082SZ)の須恵器の中には、同市・稲荷山古墳群出土のものと同じ特徴的な焼成痕跡のあるものが確認され、須恵器の生産地や流通範囲に示唆が得られた。(永井邦仁)



キジ山古墳群の横穴式石室と晴雲寺址の礎石建物および出土遺物

報告書抄録

ふりがな	きじやまこふんぐん・せいうんじあと							
書名	キジ山古墳群・晴雲寺址							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第188集							
編著者名	永井邦仁							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
きじやまこふんぐん キジ山古墳群	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 ためちょう のなか せみかわ 多米町野中・蟬川	23201	791056	34度 47分 22秒	137度 26分 15秒	2010.10.01～ 2011.03.31	1,130㎡	愛知県水道用水供給事業
せいうんじあと 晴雲寺址	あいちけん とよはしし 愛知県豊橋市 ためちょう せみかわ 多米町蟬川	23201	791400	34度 47分 22秒	137度 26分 15秒	2010.10.01～ 2011.03.31	10,40㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
キジ山古墳群	古墳	古墳時代	横穴式石室、 周溝		土師器(高杯・長胴甕)、 須恵器(蓋杯・提瓶・甕・ フラスコ瓶・広口壺)、 山茶碗(小皿)、金環、 刀子、鉄鏃、両頭金具		小型横穴式石室 1基を含む古墳時代後期の群集墳	
晴雲寺址	古墳・ 寺院	古墳時代・ 江戸時代	横穴式石室、 周溝 瓦葺き礎石建物、 階段状通路		土師器(鍋・小皿・焙烙)、 須恵器(蓋杯)、近世瓦、 常滑産甕、肥前系染付、 瀬戸美濃産陶器、 青磁(香炉)、寛永通宝		文献史料から18世紀前半の創建年代がわかる遺物群と銘のある瓦の一部が出土	
文書番号	発掘届出(22埋セ第140号・2010.8.31) 通知(22教生第1301号・2010.9.15) 終了届・保管証・発見届(22埋セ第264号・2011.3.14) 鑑定通知(22豊教美第511号・2011.3.23)							
要約	本遺跡は豊橋市市街地東方に位置する丘陵端部(通称:キジ山)に立地する、古墳時代後期の群集墳と、近世寺院跡である。古墳群では3基の横穴式石室とキジ山34号墳の周溝、および削平された古墳跡とみられる遺構1基を検出した。石室は無袖のタイプで、そのうち1基は全長が2mに満たない小型横穴式石室であり、終末期のものと考えられる。また晴雲寺址082SZは6世紀後半のもので西へ開口している。 一方、キジ山西側斜面を一部削平して造られた寺院址は、文献史料で知られる「屏風山晴雲寺」址とみられ、宝永5年(1708)に当時の吉田藩主であった牧野家がその菩提寺を造営したのが始まりである。しかしその転封により造営は頓挫し、観音堂が完成した程度で、礎石建物もそれに相当すると思われる。							

